

婦人子も

フレール會

第十六卷
第二號



第十六卷第二號目次

幼児教育の第一義

小學校から幼稚園への希望

一

二

三

幼稚園から小學校への聯絡

一

二

三

四

五

六

幼稚園の舊い圖

書架より

○リズムの話(リー氏)

フレイベル追懷錄

前田 松	河野 清丸	稻垣 知剛	小山 ひと	岡 政	小 喜美	橋本 よしち	三宅 トモ	望 月 くに	若 介	紹 子
------	-------	-------	-------	-----	------	--------	-------	--------	-----	-----

本誌定價

一册 郵税共金拾壹錢 六册前金郵税共六拾錢
拾二册同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年二月五日印刷納本

大正五年二月五日發行

大正五年二月五日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 平 井 登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレイベル會二月例會

一、二月十二日(第二土曜日)午後一時半より

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、講 演

亞米利加幼兒教育視察談

東洋幼稚園長 岸 邊 福 雄 君

○聽講隨意

二 月

フレイベル會

羽仁とも子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定價 一冊 十錢 半 分 稅 郵 六 錢 十 婦人之人友社 振替 東京 雜司 谷 番 〇〇六一

婦人と子ども

大正五年二月一日
第十六卷 第二號

一 幼児教育の第一義

幼児教育の第一義は幼児生活の價值を知ることである。之れは幼児教育に限つたことではない。すべての教育は、其の教育者の價值を知らなければならぬが、幼弱なる幼児は愛護せらるゝことはあつても其價值を無現せられ易いから、幼児教育に於て特に此事をいふ必要がある。

二

茲に幼児教育の天才者がありとすれば、その人は幼児生活の價值を感じ得る様な性質に生れて居る人である。茲に幼児教育の眞の意味の大家であるとするれば、その人は誰れよりも正當に又切實に幼児生活の價值を知つて居る人である。或る人が始めて幼児教育に従事して、次第に此の教育の眞の理解が出来て來たと言ひ得るならば、それは其の人が幼児生活の價值を會得し得る様になつた時

である。

三

幼児教育に關する凡べての問題は、理論的にも實際的にも、つまり此の第一義から派出するものである。幼児教育者の熱心も、研究も、巧妙も、熟達も、畢竟するに幼児生活の價值を知ることによつて生るゝことである。此の第一義を缺ける幼児教育の熱心も、研究も、巧妙も、熟達も、他の意味に於ては知らず、幼児教育の本義そのものからは極めて意義の稀薄なるものである。

四

吾人は幼児生活そのもの、價値に無理解にして幼児教育の必要を説く議論、幼児生活そのもの、價値を知らずして教育法の巧妙を誇る熟達、幼児生活そのもの、價値を知ることとを學ばざる保母教育等に遭遇する時、斯くの如き幼児教育が果して何をなし得るものなるやに就て疑ひなきを得ないのである。

小學校から幼稚園への希望

今や幼稚園の保育修了期に當つて、小學校への入學といふことは幼稚園の當面の問題となつて居ります。此の時、小學校側からの御注意を聞くことは、いろいろの意味に於て最必要のことと思ひます。すなはち左の三つの項目を以て、左の方々のお話を伺ふことを得ましたことは、編者の最も幸とし感謝する處であります。

第一項。 幼稚園を経て入學し來る幼児に就ての感想。

第二項。 小學校の立場より幼稚園教育に對する希望の條々。

第三項。 殊に新に小學校に入らんとする幼児に對して、幼稚園が如何なる準備的注意を爲すべきか。

東京市常盤尋常小學校長 前田捨松

〔第一項〕

今日まで私の經驗した處によると、幼稚園から來た子供は、家庭から直接に來た子供と比較して、よほど取扱ひやすいやうです。入學の當初から非常に元氣で、愉快さうで、大勢の中に立ちまはつても恥にかむ様子が更になくて頗る活潑です。之

に反して家庭から直接に來る子供はどことなく世間なれないやうで、友達に對しても先生に對しても遠慮して居るやうに見えます。それですから混合して組をこしらへる時などに幼稚園から來た子供は家庭から直接に來る子供のリーダーとなつて之を學校生活に導くといふやうな効果がありま

す。學課でいふと唱歌遊戯、手工などがよほど進歩して居ります、殊に第一學期に其進歩して居る點が著しくあらはれます。しかし一面に於ては、幼稚園では子供を日毎にたのしく遊ばしめるといふ事を大體の主意としてやつて居るものですから急に學校生活にはいつて、先生の取扱ひが保姆のそれと違ふので、子供も先生も一寸困ると云ふやうな事もあるやうです、つまり幼稚園で遊ぶ主義で多少保姆に甘えて居る爲めに、家庭から直に小學校へはいつた子供のやうに、よく物に注意深くやつて居るといふ事がなく、やゝ放縱なかたむきがあるのです、學校を一寸遊び場所のやうに考へて居るのです。それで多數に幼稚園から來た子供のある組を作つたり、または幼稚園からの子供のみの組を作つたりしますと、どうも教場で不注意であつたりして、遊びをする上にもしつけをする上にも先生が骨の折れる事があります。からだなどは運動にもよく慣れて居るので概してよいやう

である。學課の出來もはじめの中は幼稚園から來たものゝ方がよい。しかしこれが小學校卒業までいつも優秀であるかと云ふと、それは時としては常に優秀なこともあり、また時としては家庭から直にはいつた子供の方が良好な事もあります。統計を取つて見てもいつもよいと定めるわけにはありません。かりに幼稚園から來た子供の成績がいつもよいとしても、それが果して幼稚園のみの効果かどうかは直に明言する事は難かしい事だと思ひます。實際の處幼稚園に入れるのは多くよい家庭なのであつて、家庭教育にもよく注意がといて居るし、本來父母の頭腦が勝れて居るので其子供の素質がよいといふ事もありません。また幼稚園の保育をすまじさへすれば、其子供が小學、中學、大學までも其効果によつて非常に勝れるといふ事は必ずしも認める事は出來なからうと思はれます。しかし幼稚園に對してそれほどの期待をもたなくてもよからうと思ふ。それ故に幼稚園の

子供が小學校へ來る時にからだも比較的によく、元氣であつて、學校生活をしてゆく上に於ても、家庭から直接に來た子供の導き手となり。また學業を受けてゆく上に於ても大變に都合がよいといふ點に於て、幼稚園の効果は認める事が出來やうと思はれます。なほ綿密に云へば幼稚園に於てはいろ／＼の知識の開發に注意して居るのですから種々の知識の萌芽が子供の頭に出來て來るのですから幼稚園の効果は決して否定する事は出來ないと思はれます。世間のある一部分の人が稱ふるが如き人身の發育を妨げるといふやうな論は無論斷然之を否定して差支ないと思はれます。

〔第二項〕

第一に述べたやうな次第ですから、幼稚園から來た子供が小學校に於て取扱ひに困る點即ちしつけの上に放縱に陥りやすい、従つてある場合は教授に不注意である、教授を受けても遊び半分のやうで出來てもよし出來なくてもよしといふやうな

有様である。さういふ點だけは幼稚園に於て注意しておもらいしたいと思ひます。幼稚園に於て、多少小學校へはいつて困るだらうといふやうな點に氣をつけて、いくらかづゝ小學校へ近づけるやうなしつけをする事が大切な事ではないかと思ひます。それから之は前にもよく云つた事もありますが、幼稚園と小學校との双方が相近づいて、しつけの上などに出來得るだけ聯絡を取るといふ事がまた大切な事と思ひます。殊に幼稚園の併置してある場合の如き小學校からも幼稚園の有様に注意し、幼稚園の方からは小學校の教育の様子を承知して、双方から歩みあつてゆくといふ事が大切であらうと思はれます、其方法としては双方の參觀もよからうし打ち合せ會をひらくといふやうな事も必要でありませう。たとへば唱歌にしても幼稚園であまり高尚なのを教へておくと子供が小學校へはいつてから、そんな事は幼稚園でならびましたといふやうな顔をして存外熱心にならぬやう

な處がありますから、双方の打合せは大切な事です、幼稚園のがはから云へば子供が小學校へはいつた時にその様子を見ておいてもらいたいし、小

學校の方からは幼稚園の學年の終りに參觀しておいてもらひたいと思つて居ります。それから體育上に關しても幼稚園の遊戯法體育法を十分に系統的に研究してもらひたいものと思つて居ります。

小學校の方には體操にも遊戯にも大抵一定のきまりがありますからそれに關係をつけるやうにしてもらひたいと思ひます。幼稚園が獨立したものと考へますと、幼稚園だけで随分突飛なやり方をして居る事があります。それで、たとへばブランコはいくつかからのらせるとか言ふ風に理想的の案がほしいと思ひます。私は幼稚園教育は主として體育としつけといふ事にあると思つて居る。それから極めて幼稚な知識の基礎となるものを開發するのにあると思つて居ります。故に體育上について小學校と聯絡をつけるやうに、また智育の方面

にもいろいろ研究して、幼稚園で餘計の事を教へ過ぎたりする事のないやうにしておもらひしたいものと思つて居ります。

【第三項】

此問題は前項に於て既に答へてしまつたやうなものでありますがなほ一言加へますと、第三學期即ち一月から三月までの間でもいくらか園兒の取扱ひをかへて小學校へはいつても差支ないやうに、たとへば机の排置にしてもこれまで圓く並んでゐたものを小學校のやうに並べかへるとか、何か答へるのにも、今までは一齊にみんなが答へて居たのを一人々々名を指して答へさせるとか、整列して教室にはいるとか、言語動作なども漸次小學校風になほしてもらふやうにすると小學校の方で大變に都合がよいと思ひます。かういふ風に致させますと第一第二にあげた缺點が取りのけられて、幼稚園から來た子供の短所がなくなつて長所のみがあらはれて來るわけになります。(文責記者)

〔第一項〕

幼稚園から来る子供は技能科に於てたしかに勝れて居ります。それから團體生活に慣れて居るので幼稚園を経て来る外に子供の先導となつてよい模範を示す様な傾向があります。それから談話が大幅に上手で、自由に自分の思ふ所を發表します。また自體が概して健全であつて運動なども先に立つてする様です。數の觀念も算^かへ方もたしかに巧です、其外色彩の觀念名稱等も明瞭であります。之は我附屬豊明幼稚園に於て、十二色のチョーク并に色鉛筆をつかはせて隨意畫をかゝせたり、最上の組に至つては水彩畫や毛筆畫の練習までもさせてある結果であらうと思はれます。其他凡べて精神の作用が敏活正確であります。此等の長所は入

日本女子大學校附屬
豊明小學校主事文學士

河野清丸

學當時にはげしくあらはれます。しかし學期の進み學年の進むに従つて次第に幼稚園を経て來たる生徒との差異がなくなつて、二學年の末にもなると表面上は殆ど其區別がつかなくなり、けれども身體上にも精神上にも其微細な點に至つてはたしかに幼稚園にはいらぬものよりも勝れて居るべき筈であります。もし精神的の顯微鏡があつて之を檢査したならば、明に其長所を見出し得るに違ひない。しかし單なる觀察のみでは幼稚園の好影響が永久に有るかどうかといふ事は俄に確言する事は出來ない、これは實驗研究を要する問題であります。之は私の學校ではまだやつて居ないが、他に二三、十數年に亘つて之を研究して居るものもあるが、特に報告する程の成績を認めない

といふ事であります。しかし大體に於ては學業の成績に於ても身體の發達に於ても、訓練の上に於ても勝る處があるのは確であるといふ事でありませぬ。之は京都の豊園幼稚園に於て十數年來研究した結果について、一昨年聞き得た處で御座います。

亞米利加に於てもスタンレーホルルの如きは幼稚園の好影響は終生繼續するといふ斷案を下して居りますが之は精密な科學研究の結果ですから十分に信を措くに足るでせう。十數年前までは幼稚園の效果といふ事は非常な問題になつて、歐米の諸大學の間に於ても議論が一致して居ませんでした。然し近頃は幼稚園の保育法がよほど研究せられた結果、その効果が大に認められるやうになつた。私は幼稚園を有害なりなど、云ふのは幼稚園そのものがわるいのではなくて、たゞその保育法がわるいのであらうと思ひます。

もし幼稚園當事者にして、子供を保育するといふのは所謂おとなしくする事であつて、おとなし

いといふのが心身の自由を束縛して箱詰めにする事を意味するならばそれは有害である、換言せば兒童保育の目的を誤り、従つて誤れる方法を施したならば勿論有害であります。つまり誤つた理想をたて、誤つた手段で之を實現しやうとする時に幼稚園教育は有害なので、幼稚園自身が悪いのでは決してありません。幼稚園をして有効ならしめん爲めには之を家庭の延長と見ればよい。家庭に於ては幼兒は大抵之を放任せられて居るのであるから、勿論弊害もあるが、且放任に伴ふ唯一の賜として自發的獨立的に舉動するといふ長所を供へるやうになる、然るに誤れる保育を行ふところの幼稚園になると、あまりに干渉束縛に失する傾きがあるやうです、家庭に於て自發的に行ひ來れるその長所までも没却してしまふといふやうな感じが無いでもない、即ち一より十まで命令をまつて動かすといふ風になる、弊害に陥ります。故に幼稚園に於ては大に自發的獨立的精神を助長するや

うに保育してやらなければならぬと思ひます、此點を第一に考へて然る後に計畫的に保育を施す(規則づくめと云ふのとは違ふ)やうにするがよい。即ち獨立心を養成せしめるにはどうすればよいかといふやうな計畫をたて、やるやうにしたならば、たしかに幼稚園は家庭に勝る事は明である。要するに自發心と獨立心を害しない範圍に於て、十分に注意し指導するといふのが幼稚園の長所であり任務であり家庭に勝れる點であります。近頃は幼稚園が自由主義を尊ぶやうになつて、その自由主義の根本目的である獨立獨行心を養成するやうにつとめてゐる事は誠に喜ばしい現象であります。要するに幼稚園は家庭の延長であつて、家庭に於ける長所を十分に發揮すると同時にその短所を補うて行くやうにつとむべきであり、またつとめつゝあるのだから、幼稚園の効果は疑のないものである。而してその保姆は現在の處不完全にもせよ一種の専門家であるから、一般家庭の母親よ

りば教育法に熟練して居るといはなければならぬ、殊に在園中幼児は家庭より規則正しく取扱はれ間食などをしない一事を見ても幼稚園の効果は争はれないものである。それから衆兒童と其目的に遊戯し作業する間に、自然と權利義務の觀念を得て、人の物我が物といふ考も出來て來る、一言に云へば正義の念を養ひ、したがつて我が儘の心を押へるといふやうな訓育上の効果ある事は争はれない事である。それから幼稚園で課して居るお伽噺の如きは小學校に於ける修身科、地理、歴史理科をかねたほどの効果のあるものであります。之れによつて智徳を磨く事は決して少くありません。

以上述べた事をつめて云へば、幼稚園から來る子供は大體に於て結果がよろしいといふ事と、またそれはよくなければならないといふ事になります、私も大學に居た時分は幼稚園の効果を疑つて居た一人でありましたが、五年間直接幼稚園小

學校の教育に接して見て、即ち五年間の經驗によつて幼稚園の効果を確信したのであります。

〔第二項〕

近頃は自由主義が大變に力説せられて居るが此自由主義を誤解しないやうにしてもらひたいと思つて居ります。之については拙著モンテッソリーの教育真髓第五講を讀んでおもらひしたいのですが、大意を云うて見ると

教育主義としての自由は相對的即ち無干渉ではなくて其長所を伸ばす爲めの自由であつてほしい。自由の程度に絶體的自由と相對的自由とがある。絶體的自由といふと無束縛無輔導（無干渉）であつて教育せぬといふのと同じ事になる。相對的自由といふのは制限的自由であつて抑へるべきを抑へ。伸ばすべきを伸ばすのであつて控へ目な自由である。此控へ目な自由即制限的自由こそ教育の主義となるのであると云ふ事になります。しかし之を誤つて抑ふべからざ

るを抑へるやうな事のないやうに注意すべきはこゝに更めて云ふまでもない事であります。

〔第三項〕

幼稚園の最上級新に小學校に入らんとする子供に對してはよほど規則正しく取扱つてもらひたいと思ひます。即ち始業の合圖と比較的嚴重にするやうにしたりまた保育室の出入は整列してさせるといふやうな習慣をつけたいものと思ひます。それから保姆に親しむのはよいが狎れさせる事のないやうに注意しておもらひしたいと思つて居りませう。私の學校の附屬幼稚園に於ては最上級は小學校的色彩を帯びしむるやうに、小學校の最下級は幼稚園を参照するといふ風にして双方から相近づいて聯絡をはかつて居ります。

序に文字について一寸申したいのですが、幼稚園の最上級になりますと、子供は非常に文字を知りたがるものです。世間の保姆は文字を教へる事を罪惡かのやうに考へて居るやうですが、進んで

習はうとする慾望をもつて居るものを押さへる事はない、園児は自己の姓名を記し得るといふ事に非常に愉快を感じるのであります。また實物とは全く類似のない處の記號を以て其實物をあらはし得る處の文字そのものに非常な好奇心を感じるのであります。此好奇心を満足せしめんが爲めに文字を愛好するのであつて之は自然の人情であります。その慾たるや自發的のものでありますから之を満足せしめた處で少しも有害とは認められないのみならず、此の慾望の満足を押へておくと、自分勝手に文字を書き習うて筆順をあやまつた癖をつけてしまつたりして却つて有害であります。故に子供の要求するものに對しては少くとも筆順だけを正確に教へてもらひたいものと思つて居ります。また文字を教へると同時に發音を正確に教へ

ておもらひしたいものです。二三歳より六七歳までの間は言語發達上最重要な期であつてまた非常に模倣性に富んで居る時であります。故に外國語を學んでも此時分ならば日本訛りのないやうに教へられるのです。ですから文字を教へると同時に發音を正確に教へてもらひたいと思ふのです。もし此時期に世間の大人が誤つて不正確な發音を聞かせるかまたは大人の正しく云へた詞でも之をきゝかちつて不正確に發音する時は終生矯正すべからざる發音を習得する事になります。たゞ幼稚園の作業の一として文字を教へる事の善し惡しは十分に講ずべき事ではありますが、幼兒の自然的慾求にしたがつて請求するものに對しては之を教へる方が反つて弊害がないと認めて居るのであります。(文責記者)

【第一項】

私は幼稚園から來た子兒は教授をする上に大變に都合がよいと思ひます。小學校で受ける學課の基礎となるべきものを遊戯の間に覚えてしまつて居るので教授が大變にしやすいのです。平たく云へば子供が教授を受けないやうに訓練づけられて居るといふのでせう。私の學校では幼稚園から來た子供はなるべく特別にして居りますが家庭から直接に來たものよりは進歩も早く悟りもよく管理上よほど好都合であります。幼稚園から來た子供だけで一學級を編成するに足りない時でも、なるた他の秀才と一所にして組を作りますのです。が學力其他の進歩がよほど早いやうで御座います。私も數年來、幼稚園から來るものと然らざる

ものとを比較して居りますが、天性の劣等なるを除く外は、凡べての點に於て前者の方が勝れて居ます。家庭から直に入學して來た子供は初二ヶ月ほどの間は何となく落ちつかないで恐怖心をもつて居るやうであります。幼稚園から來たのは嬉々として楽しんで居る有様です。ある讀者は幼稚園から來る子供は在園中保姆が甘く仕立てるから小學校へ來てからも教師に狎れて管理に困ると云ふやうな批難をするが、それは會々園兒の勝れた點であります。家庭から直に來た生徒は學校に慣れないのでなんとなく心配さうに教師などにもこわく接して居るのに、園から來たのは少しも畏縮する事なく其天性のまゝに云爲して居るのであります。教師に親んで自由に思ひたい事を思ひ云

ひたい事を云うて居るのであつて狎れて居るのは自ら別問題であらうと思ひます。それで私は反對論を少しも苦にしない方であります。それから幼稚園(附屬の)から入學したものは校恩を感じる事が非常に深いやうで、それが父兄にまでも及んで居るやうであります。例へば少々通學に不便な處に轉居しても、「小さい時からお世話になつた學校ですから」と云つて學校をかへるやうな事をしてないやうな事があります、是等は徳育上にも影響する事と思ひます。それから今度學校を改築します時にでも幼稚園から來た子供の父兄からは殆んど寄附金がもれないといふやうな事もありました。

私の宿論として尋常小學校には必ず幼稚園を併設するといふ事にしたいたいと思つて居ります、それから主義としては無月謝主義なのです。さすれば尋常小學校は今一段進歩する事になりませう。目下は家庭から直接に來た子供は學校に慣れないの

で、初め一二ヶ月の間は空しく過してしまふといふやうな有様になつて居ります。是等の缺點を補ふ爲めに幼稚園が家庭と小學校との間に立つて追々に家庭から學校風に仕立て、ゆくといふ事が小學校に取つても最好都合の事であらうと思ひます。

〔第二項〕

小學校から幼稚園に向つて希望したい事は双方の聯絡がほしいといふ事でありませう。幼稚園の方からも進んで小學校に聯絡をつけ、小學校の方から幼稚園と参照するといふ風に双方から歩みあつてゆくといふ事が必要であらうと思ひます。殊に幼稚園の最上級と小學校の初級とはお互に足を運んで行く必要がある、一例をあぐれば唱歌の如きもし幼稚園で一度學んだものを小學校で新らしいものゝやうに教へても子供は一向に興味を感じない。また園で手技といひ小學校で手工といつて居るものゝ如き科目に於て同一の事をくりかへさ

せる事のないやうに、また幼稚園の三學年になれば凡べての行動をなるべく小學校の初年級に近づけるやうに、なるべく學校的にして園から小學校にはいつた時に子供が驚くほどの相違を感じないやうになりたいと思つて居ります。それで双方の聯絡を取るにはどうしたらよいかと申しますと幼稚園の保護者會には小學校の先生が出席するやうに、また小學校の保護者會には幼稚園の保母はなるべく出席して參考になる事を見聞するといふ風にするとか、互に打ちあはせ會を開くとか云ふ事にして、なるべく研究しあふやうになりたいと希望して居ります。それから小學校の訓導を幼稚園の保母とは智識に於て學力に於て同じ同程度のものであつてほしいと思つて居ります。

今一つは幼稚園の保育料が如何にも高價ですから、今少し低廉にしてもらひたいのです。日本に於て初めに設けられた幼稚園が如何にも貴族的のものであつて、幼稚園は高尚なものであるといふ

觀念を作つてしまつたのですが之は誤つた考へ方でありませう。私は貧富押しならべて凡べての幼兒を幼稚園に入れたい考へでありますから、理想から云へは保育料は皆無にしたいのですが、已むを得なければ小學校の月謝と同じ位にするといふ事になりたいと思つて居ります。現今幼稚園の數の少ないのみならず、その一園に收容兒童の數が少數に限られて規定せられて居るといふ事も不平の一つであります。但し一人の保母につける幼兒の數はいくら少くてもかまいませんので保母の數を多くして今少し收容兒童の數を多くするといふ事にしてもらひたいものと希うて居ります。

〔第三項〕

幼稚園を終つて小學校にはいらうとする子供に對する準備としては、だん／＼に學校風に仕立ててゆくといふ事にしてもらひたいのです。二學期頃までは幼稚園主義でやつてもよろしいが、三學

期頃からは凡べての點に於て小學校の一年の管理法訓練法に近づけてゆくといふ事にしたのです。下駄箱の番號を教へたり、教室といふ名前も教へなければなりません。右左といふやうな詞やら、右へならへといふ様な事凡べて小學校入學の準備となるやうな事を教へるのです。また意志を表現する爲めに手など舉げさせるといふやうな事もして見るのです。なるべくは送り迎へもやめさせるとか、辨當に札をつけさせるとか、よく自分の名前がよめなくとも形の上でかういふのが自分の名前と云ふ事を覚えさせるとか云ふ事にしたのです。數學など出来るならば覚えさせるがよいと思ひます。(私の學校では入學の當時子供に番號をつけさせます。そしてその番號を名前の代りに用ひて居ります。たとへば五番なら五番の子供は下駄箱も五番札も五番、辨當も五番凡べての携帶品が五番なのです。から大變に簡便なのです、そして一旦定めた番號はどんな事があつても變更しませんので

す。さうすると家庭から傘などもつて來た場合などその番號の處にさへおけばよいのですから其れは便利です)

要するに小學校に於ては教授訓練よりは管理が困るのであるから、幼稚園では管理を準備の第一目的としなければならぬ。管理上に關する事ですが、幼稚園の子供が往復危険であるからと云ふので附き添ひがついて來るのは仕方がないとしても之を授業中ずつと待たしておくのは、子供に依頼心を起さしめて甚だよろしくありませんから此事は廢したいと思ひます。小學校にはいる準備としては此送り迎ひもなくべく少くするやうにしたいと望んで居ります、私の學校ではついて來た父兄に初日か或はその翌日に引きはなす事にして居ります。初めが大事なのです、子供の不機嫌に負けて二日三日と許しておくのだん／＼依頼心が強くなつて容易に之を離す事が出来なくなります。こんな點も幼稚園と小學校は聯絡を取るべきである

と思ひます。

其外身體検査ですが、發育の不十分なものはなるべく幼稚園で之を引きとめるやうになりたいと思ひます。智識の方面は發達して居る時など子供ははいりたがる之をとめるのは一寸可愛いさうなやうではあるが、其等の將來の爲めに強い意志を以て之を引きとめる事にしたと思ひます。小學

校へはいつてから通學をとめると何か身體の弱い外に故障があるのではないかと他から疑はれたり、父兄にも一種の感情がありますが、幼稚園で引きとめる方は比較的しやすいのですからなるべく弱い子供は小學校へおくらぬやうな方針にしてもらひたいと希望して居ります。(文責記者)

○三田谷ドクトル著『幼兒の精神査定及幼兒取扱法』

幼兒の精神査定が保育上屢々必要のことであり、苟も個性を重んずる保育者の必須の知識であることは、更めていふまでもない。しかも之は専門の、殊に新しい學問を要することで、我國に此の方面の著述は從來一つもなかつた、三田谷ドクトルの此の新著を得たことは、斯界の爲最も大いなる喜びとしなければならぬ、三田谷ドクトルが獨逸に於て特に此の方面の研究を積まれた新知識であり、その講述の甚だ有益なることは、昨夏本會の夏期講習會に於て、其の講義を聴かれた諸君の皆均しく知らるゝ處である、此の書はすなはち、其の講義の筆記を訂正して一冊とせられたもので、行文平易最も分り易く説かれてある。(東京本郷區西片町十番地兒童書院發行。正價金八十錢)

幼稚園から小學校への聯絡

幼稚園と小學校との聯絡といふことは、此の二つの教育過程の間の起る最も必然な問題であり、しかも實際上にいろ／＼の論議の出で居る問題であります。現に去年の全國幼稚園關係者大會に於ける文部省諮問案の中にも、此の問題が出て居ります。そして、廣く各種の方面から考究せられたのであります。そして、此の問題を完全に解決するためには、種々な根本的な考究を要することをも知つたのであります。私共は此の方面に大に力を用ひなければならぬのであります。しかも、その根本的方法はなかく一朝一夕にして實現し得ません。そして、其の根本的解決が出来ぬからとて、此の問題の事實上の必要は一日を忽せにすることも出来ないのであります。そこで、編者は此の問題の極めて手近な又實際的な方面として、左の三つの事項につき研究することが、幼稚園側の急務ではないかと思つて茲に左の方々の實行上のお話を伺ひました。

第一項。 幼稚園と小學校との聯絡に關し幼稚園側にて執らるゝ方法。

第二項。 幼稚園最年長組に對し特に如何なる教育を施さるゝや。

第三項。 殊に幼稚園終了前の此の保育期に當つて幼稚園より小學校に移る準備として如何なる注意を與へらるゝや。

大阪市御津幼稚園長

小山ひで

〔第一項〕

世に云ふべくして行はれざる事、數多き中に數

育に關する連絡問題程容易らしくして困難なるも

のはありません。

家庭と幼稚園、又は幼稚園と小學校、小學校と中等學校、數へ來れば皆同様の困難であります。

さればとて元より打捨て置くべきこととなく、出來得る限り双方から努力すべきですが、假令一方からでも力を盡せば其の効ひのないことはありません。殊に幼稚園と小學校の間の如き、幼稚園の方から熱心に力をつくしてゆけば、たとへ小學校に於て幼稚園なるものに多くの注意を拂はず、淡々たる態度に出づる様のことがありましても、遂には熱よく冷を動かす理窟で何かしら効果あるに至るものと信ずるので御座います。但し實際はまだ努力の足らざる爲か云れどと好成绩を得たと思ふ事も稀に、誠にお恥しいのでありますが、只實際に行つて居ますことの一二を申上げてお答へします。

一、小學校教員を招待す。

保護者會其他幼兒に關係ある會合に於て小學校の訓導を招待し、幼稚園保育の實況並に方針を知つて貰ひ、且幼稚園と保護者に關する諸般の事を話し合つて他日入學せし際の參考とします。此の

會には小學校教員に都合よき時刻を選びます。此の方法につき只今の處未だ目立つた結果は得ませんけれども、近來小學校の先生方の出席の數次第に増加し、保育に關する疑義質問の澤山出ますのは他日良果を收める基であると喜んで居ます。

一、出身兒體格及び學業成績表を作る。

題目の如きものを作り、毎學期毎に小學校の考查簿を借り該表に記入し、今後の保育の參考とします。

今迄の表の示す所によりますと、學業の方は幼稚園にて優秀又は劣等と認めしものは十中の七八迄其の通りであります。中等程度と思はれた者の中には次第に著しく優て來る者もあります。之れは別に問題はないのですが、幼稚園で心弱く僅の事に泣く、俗に意氣地なしと思はれたものに、操行の優れたるもの多いのは、考ふべき現象ではないかと思はれます。體格については、校醫園醫なるものを今少し完全のものにせられない限りは、

統計も用をなさず、頓と比較研究も出来ません。

一、保姆の小學校參觀。

一ヶ月一二回園務を繰合せ、交替に小學校を參觀、前に該保姆の保育成した生徒の有様は勿論、其他をも參觀して、小學校の教育を知り保育の參考の資とします。

之れは理窟の上からいつても實際から見ても余程有効であります但其度數が多過ぎると弊害を生ずる事がある様です。

一、修了兒の入學時は保姆附添ひ團體と

して送る。

新入學の際、保育修了兒全體を一旦園に集合させ、更に保姆附添の上、受持教員に渡し、所持品の置場所、其他新入兒として心得ふべき事項を實地につき兒童に知らしめ、且受持教員の新入兒に對する一切の事務を手傳ひます。其傍ら、こちらからも各兒の特性並に其取扱ひ方等、參考となるべき事を受持教員にお話します。斯ういふことを

二三日續けて行ひます。

之れに對し小學校側では至極便利だと喜ばれ、其連絡上の効果多く、且保護者の満足の大なる事想像以外であります。

一、保育臺帳の引渡し。(臺帳とは園籍と

個性觀察を含有せるもの)。

入學後に三日の後、つとめて斷定的の語句を用ひず、(假令ば愚鈍とか頑固とか)しかも參考となるべき事項を細記した個性觀察等と、生年月日又は其他家庭に關する事項、並に體格検査の結果等を、明記せる園籍簿とを小學校に送り、且、詳細なる事は別に懇談的に説明いたします。

之れは小學校側の手數を省くの利あり、個性觀察なども充分利用し効果を修めてゐる人が尠くありません。

〔第二項〕

一、年少者を勞らしむ。

最年長の組とて元より善惡の區別を明知する年

齡ではありませんけれども所謂習ひ性とならしめる爲にお辨當の際とか、或は共同遊戯の際とか、機會を捕へ得次第、弱者を輔ける事を實行させます。

一、自治性を養ふ。

年少の組でも、徐々に自治の習慣のつく様指導することは申す迄ありませんが、特に最年長となれば己が身邊のことは勿論、自分の屬する團體の仕事も出來得る範圍内に於て交互に分擔させます。例へば窓の閉閉辨當の持運び室内の整頓、尙進みては來客應接室の整頓、年少者の辨當の準備等のこと。

一、注意力をより以上増進せしむる様勉む。

小學校側から、幼稚園に對する批難の第一として數へらるゝものは、出身兒の注意力の缺乏であります。但し其一方に於ては或程度迄、發達し、且活力の満み／＼て居る幼稚園出身兒を扱ふに當り、小學校でそれに適當せる教授訓練をせられる

かと云ふ疑問は、いつも幼稚園側から出る問ひであります。けれども、いづれにしても人格構成の基たる注意力を年少時以上に増進させ小學校教育を容易に且充分有効ならしめるのは最年長兒に對する保姆の責任であります。されば興味により或は習慣により或時は靜肅を保たしめ或時は感官練習により、注意を一點に集注させることを力めて居ります。

一、言語の誤りの矯正。

年少に於ては、まだ舌の廻らざるものもあり、又所謂幼語の必要を感じる場合もないではありませんが、最年長となれば、特別のものを除く外は、正しき語句を語り得るに至るものでありますから、時に應じて其矯正に力めます。例へば(トウヲ十)を(トヲ)又、(デケマシタ、)を(デキマシタ)(カララ)を(カラダ)といった風であります。但し此等は我地方に於て特に必要を感じるものかも知れません。

一、體育をなすに當り積極的分量を多くす。

消極的體育も幼児として適當のものかも知れませんが、次第に長じて、身體が著しく發達し來ます時は、其筋骨を或度に於て練るの必要を生じます。されば最年長兒に對する體育としては、保育項目並に時間割等を作成するに當り、最之に留意し、過度ならざる限りに於は多少鍛鍊的な體育法をも實行します。

〔第三項〕

一、保護者への注意

(イ)入學前となりますと、親心として其學業の成績を氣遣ひ、一學年用の書物によつて豫習させるといふ風のこと稀れではありませんから、これにつきて、却て害多く利少なき事を注意します。

(ロ)遅刻缺席を試むる度を強くし、入學後の惡習慣を防ぐ準備とします。

一、音樂の量を減す。

音樂は幼兒時代の最大切な課目でありまして、

これにより樂しみ、これにより喜んで居るのであります。が、一朝場所をかへ入學する時は唱歌遊戲教授の外に音樂がなくなり、爲に寂寥を感じて通學を厭ふか然らざるも、さなきだに戦々兢兢たる彼等の小き頭腦に寂しがらせ、荒びたる感情を起さしむる恐れがありますから、入學前三ヶ月頃から徐々に音樂の量を減じます。

一、入學時迄に己が姓名を讀み得るに至らしむ。

新入學の際第一に困難を感じるのは、該校各所に新入生の姓名を貼り、これを目標としてあるにも拘らず、十中二三の兒童はそれが少しも分らず爲にいろいろ不都合を感じる事であります。故に一見自分の姓名である事を知り得る範圍に於て、機を見て誘導します。例へば保育料袋の如き、畫き方帖等同一の形のもので、姓名によつて各兒を區別するものを取らせ、又各兒の姓名を書きたる

札を繙いて、それ拾ひ取る競争をさせ、又黒板に一兒の姓名を書き、書かれし兒はそれを見て起立する等のことを適宜いたします。

一、其他小さな事ですが左に列擧すれば

イ、机の排列を小學校の如くする事。

ロ、新入學後直ちに體格検査に遭遇しますから其準備として、衣服の着脱を己が力でなし得る程度に練習する事。

ハ、前期に比し在室時間を徐々に長くする事。

ニ、在園紀念として一兒一葉宛繪を畫き殘させる事。

ホ、左右、週名等を明確に知らせる事。

ヘ、己が住所父母の姓名を他の問ひに對して、

答へ得る様導く事。

ト、小學校教授に於ける注意力を養成する一助

として保姆のいふことを、なるべく再びせざる様にする事例へば(積木をお取りなさい)と云へば(何をです)と再び聞くとともにこれに對する答をなさず靜に考へ想起せしむる類。

先づ斯様のことを致して居りますが、考へるより行ふは六かしく、行うても充分効果あらせることは尙ほ六かしく、いろいろ御示教を願ひます。

岡山縣女子師範學校
附屬幼稚園保姆

岡

政

幼稚園教育に於て家庭教育が基礎をなす如く學校教育に於ては又幼稚園教育が一層大切な基礎をなす事は自明の理であります。いや猶進んで幼兒

の人格の構成は此の時期の教育が與り加つて一個の大なる要素をなすのであります。但しこの大切な幼稚園教育は決して別のものでなく教育一系統

中で、しかも家庭と學校との中間に立つべき大切なものであります。故に幼稚園側に於ては、果して其次に来るべき學校教育の基礎聯絡を如何すべきかと云ふ事を考へてかをらなければなりません。併し學校は學校、幼稚園は幼稚園で各特種の目的があつて其施設の總てが學校に都合よく聯絡せしむる事は出来ません。依つて是れは申す迄もなく、これを受持つべき保姆と訓導とは廣き意味に於て全くの協力者となつて、兩方から互に注文もし又相談もして恰も兩者は唇齒輔車の關係をとつて、そうして其結果が充分實行し統一せられ、ばよからうと思ひます。

そこで先私は幼稚園からとして、考へて見て、幼兒の爲め適當と思ふ事の一つ二つを申述べて、皆様の御教へを希上ます次第であります。

さて聯絡と申しましても、各幼兒個性誘導上直接に聯絡を要する事もありませんし、又大きく幼稚園教育全般として聯絡を要する事も多くありません。

す。それで以下個條を分けて申しますと。

一、保姆に關する方面

先聯絡の第一歩としては、保姆が學校教育といふものを理解することが肝要と思ひます。毎日大切な幼兒をあづかつて居ながら、是等幼兒が幼稚園を去ると同時に學校でどんな教育を受けるのであるか位は知らなければ、到底完全の保育は出来ませぬ。教育といふ仕事は過去を知り現在を知りそして將來に向つて必ず期する所を有するもので、其の日／＼がすめばそれでよいと云ふ事はないのでありますから、保姆教育の理論を學び正しい教育全般の指針を知ると共に、實際方面の教授状態をも知る必要があると思ひます。幸にして私の校では時々批評教授等がございますから、幼年級の時には成るべく繰合せて參觀し批評も大きく事と致して居ます。それからまた、幼稚園に於て批評保育を致します際には、學校側の主なる人と幼年級受持の指導とは成る可く臨席してもらつ

て基礎教育、特に學校教育前の遊戯的取扱法をも見てもらひ意見をきく事として居ます。これは私共が學校の教授法を見るよりも一層効果の多い事の様になります。

二、保育の全般に關する方面

(イ) 訓導の方針と其實施細目

聯絡の第二步と致しては幼兒をして如何にして學校教育に容易に聯絡し得らるゝかを謀ることであります。是れは教育といふ根本の大方針は何れも變ならぬと致しましても、家にそれ〳〵家風習慣がある如く、學校にも其理想とする點が皆いくらか異つて居ますから、基礎たる幼稚園教育をこれに應ずる様適當に導く事は最大切かと思ひます。依て訓練するに當りましても幼稚園は家庭方面の理想を斟酌すると共に、學校教育の方針に矛盾せぬ様實施細目を作り、そして學校の訓育へ滑かに入らしむる事をつとめなければならぬと思ひます。

(ロ) 保育項目

是れは學校の教科目とは全く性質を異にして居ますため、規定を作つてそれ以外のものは全く用ひぬとか、又學校の教科と聯絡を作らねばいかぬとかいふような窮屈なことは必要でないと存じます。唯々幼稚園教育其ものゝ目的を達するため、保姆の經驗と不斷の考案とを以て適當と思ふものをとりまして、例へば各兒を桃太郎の老姥に擬へて、各自の椅子の覆布を洗濯させますとか、又此頃では男女各兒に凧を持たせて凧上競争させますとか、又幼兒を羊の小屋に入れて三匹の羊を相手に同じように戯れ廻るとか、斯くして半日位は時の間に過されます。是等は學校の教科とは外見何等少しも關係ない事ではありますが、幼兒に善良の情緒習慣を感得せしむる所謂教育の形式的目的を達する方面に於て、確かに一つの基礎となり聯絡となり學校に於てより實を結ぶに至る事と信じます。又結果として幼兒相當の知識を自ら修

得する事となると思ひます。猶幼兒が學校へ行つた後とても幼兒との關係をたはず嘗て幼稚園時代に於て栽培して居た豌豆等の實が出ましたら、それを共に收穫共に料理して晝食時に與へ、猶學校へ送つて豆細工の時に使用させますとか、其他數へて行けばいろいろ實施し得ることが澤山あります。

それでつまり私は左の如き考へを持って居ます。即ち保育事項は幼稚園教育の目的を達する手段として便宜採擇して、その教育の原則の規範を逸せざる範圍内でこれを取扱つて、そして是れによつて専ら教育の形式的方面の發達を促す事をもつて

聯絡の大綱と考へ、目につく程の知識分量上の聯絡は少し考ふる要はありませんと思ひます。但し幼稚園は學校に對する義務、幼兒に對する親切として、假りに手段としても用ひたる保育の實際細目は一學年受持訓練に送つて參考に供する必要があると思ひます。又幼兒の在園中に於ける心身の狀態を成る可く委して記して教育上の參考とし、個性觀察の結果並に其誘導方法の記録は學校の訓練上最大切なものと思ひますから一學年受持訓練に送つて活用してもらひ其調和統一を解ることの必要は申す迄ありません。

東京市誠之幼稚園保母 小 向 喜 美

〔第一項〕
之には實に困却いたします。過日大會の節にも

私は殆んど申述ぶる意見がなく黙して居りました次第で御座います。然し今日迄試みました條々を

有のまゝ申上げますれば、

一、幼稚園保姆交互學校を參看する事。

一、一ヶ月に一度研究會を開き本校職員及幼稚園

職員全部一堂に會し問題を持出す事。

是は主として本校に關する問題多く、幼稚園保育上の問題は一二持出しましたが保育に御經驗なき爲余り効果を得ません。幼稚園職員のみにて研究致し唯學校の問題を傍聽して多少幼稚園の參考に致す丈の事で御座います。

一、子供會

大抵土曜日放課後二時間以内にて閉會の事と定め小學校より一學級或は二學級の生徒を幼稚園に引卒し幼児と合併にて各相當の唱歌を聞かせ合ひ、或は學校生徒の談話、手品（幼児に分り易き程度）を致し時に六年生等と合併の折は其幼稚園時代の有様を私より話しきかせて、同級生拍手大笑いたすこともありませす。又相撲等致させませす。是は幼児も本校生徒も非常に喜び、

且は幼稚園を忘れぬ一方法としてよろしき様に存じませす、無據事情で只今は中止致して居ります。折を見て再興致し度い考で御座います。

〔第二項〕

有ふれた事で御座いますが、訓練を主とし不知不識の間に必要なる習慣をつけ度く存じて居ります。入園の初より自治獨立の習慣を養はん事は寸時も保姆の念頭をはなさぬ事で御座いますが、最年長の組となりますと、學齡も近づき、或は到達致して居ります者ゆゑ、是非此の習慣をつけないと、何事にも之を實現致さす様に腐心いたして居ります。一二例を申上げますと。

一、各自保育室の整理即ち朝或は晝食前机上に塵の溜るを見れば雑巾を興へて拭はしむ。

雜誌類の亂雜になり居る時は心附きたるもの保姆の命をまたず整理する等。

一、マント肩掛の着脱は一切保姆は手を出さぬ事
ホック等かゝらざるは幼児相互に手傳はしむる

事。

一、歸宅登園の際下駄草履の出入は一切人の手を借らざるを誇となす事。

一、砂場用道具の出入を自分ですること。等で御座います。

次には幼年の者をいたはる事を獎勵致して居りません。

例はエプロンのボタンのはずれたるをかけてやるとか、泣いて居る者を見れば保母の處へ連來るの類で御座います。時にをかしきは何か出入口が一時にたてこむ様の時、若し年少の者を年長組の者が押すとか、或は押のけ先に用を便する様の事がありますと、全組の兒童之を咎むる事非常に聲を揃へ節をつけ「誰カサンハ悪イナ」と口唱致し爲に押されたるものより押したる者が泣き出し之を慰むるに困る事などもあります。

次に保母の命令には絶體的に服従させる事。

尤此組擔任の保母は命令をなすに非常なる細心

の注意を致して居ります。

次に深呼吸を眞面目に行はしむる事。

當園にては朝禮會集の節深呼吸を致させますが、幼年組の幼兒は唯年長者の外形を真似るに止まり、口先のみにて比較的深き呼吸を致す位ですが、年長組の兒童には腹部に力を入れる事、吸ふ時は決して口にてはなさぬ事、及口を開き居りては道を行く時にも種々の害ある事等簡明に話聞かせ、完全に行ひ得ずとも比較的正確に方法を教へ、且其快感を注入的に知らしめ、昨今は少し念の入りたる仕事をなしたる後又は非常に運動したる後等一同直立して之を應用させ時には、同時に發聲させることを致して居ります。

次に元氣のよきを誇とする事及び意志の發表には躊躇せざる事の練習致して居ります。

次に注意力養成の爲我慢くらべの遊を獎勵致して居ります。

此遊は「ニラミッコ」から轉じましたもので、而

も幼児自身の作り出しましたものを幸として、保
姆も之に加はりなかく面白き遊に成り居りま
す。昨今は非常に熟練致し、大人の方が時に敗北
致す事もあります。其方法は直立或は座床何れの
姿勢にても無言不動の姿勢にて、二分乃至五分保
姆に注目致させますので、保姆は時計を手にし、時
が來ますと合圖をなして、自由に休息させます。
其間に目を動し手を動し笑ひ等致した者は負と相

成り、終迄注意の亂れざりし者を勝利者として拍
手稱賛せらるゝ譯で御座います。

〔第三項〕

- 一、規律をよく守る事
- 一、自分の事は人に世話をかけぬ事
- 一、學校に行かば我慢くらべにまけぬ様する事
- 一、遊ぶ時は元氣よくせよ
- 一、先生の問に對しては思ふ事をズン／＼答へよ

〔第一項〕

當園に於ては時々小學校の授業の有様を參觀し
特に年長の受持保姆の参考とします。

〔第二項〕

別段な施設はありません。只なるべく保育室内
に於て靜肅を旨とし、保姆の起動に注意させ、幼

仙臺市幼稚園長事務取扱 橋本よしち

兒等の自動的動作を少なくする傾向を執ります。

〔第三項〕

此の際に於ては殊に數の觀念を確實ならしむる
ことに注意するのみで、格別に何等示教せず、只
幼児等の小學校入學を歡ぶのに同情を表し獎勵す
る様致たしますのみです。

〔第一項〕

幼稚園側より小學校との聯絡を執ることは、之を總括的に申しますと、幼稚園の自由生活より直に小學校の嚴格なる教權の許に規律正しき生活に移ることは、幼児に取りては随分激變でありまして、心身ともに大動搖を感せしめ、之が爲めに氣弱き子供などは、幼稚園生活の間は身體健全にして快活であつたのに、小學校に入學すると一時此激變の爲めに心身の活氣を減じ、教師の問ひに對して知つて居ることも答へ能はざるような憶病者と變化するのみならず、幼児の心身を害することの甚しきは毎年入學當時實見するのであります。斯の如きは幼兒將來の教育上實に不幸なること、思ひます。故に此害を防ぐ爲にとて左記のようなことを致して居ります。

大阪市本田幼稚園保母 三宅トモ

即ち保育終了前になりますと、四月入學後お世話になる先生に教室に時々參觀に受持保母と共に参りまして、先生の御親切なる御教授の有様を見せ、先生及び其教室におなじみを付け、幼児をして入學後の恐怖の念を起させぬように致します。幸にして幣園は二階に小學校の一學年級全部を置かれて居りますので、従つて屋外自由遊戯の際は現在の一學年級兒童(昨年保育も修了兒)と共に遊ぶようになつております爲、此間に小學校の方からも幼児に親しんで戴くように先生に願つております。

又幣園では幼兒在園中日々の遊戯上に實現する個性を調査し、それを記せる調査簿を保育終了期の終りに小學校の方へ送り御参考に供して居ります。

又幼兒一學年に入學後一二ヶ月間はをり／＼保
姆は一學年級を參觀に參り、各兒に對する受持先
生の御意見を伺ひ、保姆の方よりも各兒の特性缺
點、其の取扱ひ方等に就き意見を述べ、教授上御
注意を願ふ様にしてをります。幼稚園の方よりだ
けでは之以上唯今では致して居りません。尙此れ
以上幼稚園と小學校との聯絡を細密になし幼兒教
育の効果をして大ならしめんとするには幼稚園の
保姆が一學年に持上るようになれば教育上幼兒將來
の幸ひであると思ひます。是非さうありたいもの
で御座います。

〔第二項〕

最年長の組なりとて別に變つた教育は致しませ
んやはり年少の幼兒の組と同じように各兒の自由
活動に依りて身體養護及發達と専らとし、玩具を
與へて各種の感覺機關の練習をなし、共同的遊戯
に依りて自己感情を整理するに過ぎないのであり
ます。然し、同一のことの中で稍之を強度に練習し

ます。強度と申ましても別に荒いことの意味では
ありません。例令自由遊戯を少くして「スキップ」
の如く現律的の共同遊戯を多くし、園外保育など
も一週間に一回なりしを二回とし、又距離も往復
一里位歩行せしめ、此際足など痛くても痛いと言
はないとか、お茶は水瓶の他はがまんするとか、
少し位疲れても翌日登園に遅刻しないとか言ふ
ことを約束させて連れて行くようにしてをります
のです。(之は幼兒には最も興味が深くて毎週催促
を受けます)

又言語練習としては、第一に自己の年齢姓名父
母兄弟姉妹の名前住所番地等は高聲に明瞭に言は
しめ、唱歌遊戯の際も幼兒の好む飛行機旅行など
をいたした時は、今どこを見て來たか、又何如な
るものが居りましたかなど尋ねて幼兒をして感想
を活さしめたり、板畫談話をたくして、保姆は黒
板に談話材料の繪を描き、幼兒をして之を自由に
想像せしめ又言はせませす。

次に段々仕事を多くさせます。假令は動植物の世話をすることなども年少の組には動物に餌を與へさせ植物に水をかけさせる位のことを致させますが、此組になりますと、動物の檻の掃除、植物植替へ、種まき温室の整理などを致させます。

又室内の裝飾及び整理なども致させます。折々には小さい組の辨當の世話をも仕たがりますからなさしめることにして居ります。

遊戯具として特に此組になつてから與へる品は左記の物だけであります弓矢、綱引き、數遊びのカード、文字遊びのカード、色彩遊びのカード、種種の組合はせ組み立て玩具、組籠等であります。其餘は年少の組と變りはありません。

〔第三項〕

此の保育期に於ける小學校にある準備としては、別に際立つ程の注意を與へることは致しません。此最年長組一年中保育に於て第一保育期より第二第三と順次に保姆の手心で注意せしめるよう

に致して居ります。併し第三保育期、即ち保育修了前には前二期に比して稍嚴格に規律を守らしめるようにしてをります。其事柄は重に躰方方面に關することでありませぬ。登園の時間に遅刻せぬように毎日歸園の際注意し、翌日遅刻した者は會集の場所で保姆及び一同の子供に殊に挨拶すること

を約束し嚴重に之を守らしむるよう致します。又携帶品を忘れぬように注意し、之等には皆名札を附けることとし、忘れた者に直に取りに歸らすように實行致して居ります。其他室内の出入及機の配列を稍小學的に練習致します。幼稚園では凡て自由活動を主として室内の出入なども各兒自由になさしめますのを、此期になりますと、室の入り口に整列して順次に這入り、又機の配列も今迄は馬蹄形、二字形、三字形などに並べましたのを小學的にし、室内保育時間は十五分乃至二十分でありましたのを二十分乃至三十分間位に延期し、保姆に用事あるときは擧手をなし許しを待ちて發

言すると云ふ位なことを致します。併し之は毎日
は致しません一週間に二度位月を定めて今日は斯
うしませうといふ風に致します。以上は唯弊園に

於て致して居ります實際を申述べたに過ぎませ
ん。御經驗の深い皆さまから御示教をいたゞく事
を懇願致します。

神戸幼稚園長 望 月 くに

〔第一項〕

我神戸幼稚園保育済の幼児は神戸区内各小學校
へ十人十五人と分け／＼に入學し、家庭から直ち
に入學する兒童と混同するのですから、幼稚園修
了児のみを以て一學級を編成せられたるのに比す
すれば、非常に不利益を感じます。今十年以來執
り來たりました方法を申上ぐれば左の通りで御坐
います。

(1) 各小學校の職員方を幼稚園にお招きして、懇談
會を催したる事もあります。

(2) 各學校幼年級受持の教員及校長をお招きして、

聯絡上につき御相談したこともありませぬ。

(3) 幼稚園の保姆を交替に各小學校へ派して參觀せ
しめ、且教員と意見の交換を爲さしめたことも
あります。

右より得たる効果と感想

(1) 幼稚園職員と小學校の職員との間に相互の意思
の疏通を得ましたこと。

(2) 當園出身兒童の各學校に於ける状態を知り得ま
したること。

(3) 各小學校の教授訓練は大體に於ては素より大差
はありませんが、仔細に之を觀察しますと、

各校各受持の取扱方法及意見は區々でありまして幼稚園側からは其何れを標準として宜しきや、聯絡上の方法を定めるには頗る困難を感じました。

(4) 幼稚園に於て、児童をして強き刺激に馴れしめず時は、小學校に進むに及んで更に夫よりも強き刺激を與ふるに非らざれば感ぜざるに至る恐れがあります。故に幼稚園に於ては家庭に代りて教育する精神を忘れず、児童の年齢に相當せる心身の發達と其生活を樂しませるを主意としなければなりません。若し小學校教育準備の爲に幼稚園教育の目的を犠牲に供するが如き事がありましたら、却つて害があります。之れは大に心すべき事であると感じました。

現在執りつゝある方法

(1) 小學校教育の範圍内には立ち入らざる事

他日小學校に於て學習し得らるゝ事項は幼稚園に於てはつとめて避ける事とし、唱歌遊戯談話

手技等凡て幼稚園の獨特のものを用ひて純ら基礎的教育をして居ります。

(2) 小學校へ入學後の児童の狀況を參考とす。

(い) 幼稚園教育を受けたる児童は度々幼稚園に來り其の成績を保母に告げるやにさせます。

(ろ) 保母は児童の爲に時々小學校に參り、受持教員といろくく相談を致します。

(は) 保母は嘗て受持つた児童にあひ、又は其保護者に接する機會のありました時は、常に其児童の學校及家庭に於ける狀況を尋ねること。

(に) 同園會を開き毎年一回出身児童を集めます。

(3) 時時校園聯絡會を開きて意見を交換します。

〔第二項〕

小學校と聯絡の爲といふ目的で特に何等の教育をも施すことは致して居りません。これは小學校

との聯絡を意としない譯では御座いませぬ幼稚園は幼稚園としての相當の教育をさへして居りますれば兒童はおのづから小學校教育を受くに最もよきものになると信じて居ります故、何等形式上の聯絡方法を取りませんのです。只身體能力の普通以下なる幼兒に對しては特別の注意を加へ、其足らざるを補ひ小學校入學後の困難を尠からしめる

幼稚園の舊い圖

様いたして居ります。

〔第三項〕

兩三年前迄は此期に於て机の排べ方を取り替へ號令などを用ひて多少小學校類似のことをいたしました事も御座いましたが、今日にては全く何等の準備的のこともせず、幼稚園最年長組としての普通教育を施すだけで御座います。

若　　き　　父

一
昔「色鉛筆」や「縁の家」で、時々讀者諸君に迷惑をかけた私の子供は、其後二年の長い間、御茶の水の幼稚園に御世話をして戴く事に成りました。丁度其頃から私の所謂慈愛文學の源泉は枯竭して仕舞つて、どうしてもあの當時のやうな暢氣な記事を書く直接の興奮が無くなりました。

それは一つは世話の焼ける自分の子供が、非常に先生方に御迷惑をかけて居る爲めに、親の感情を主として偏觀的の所謂「好い氣の記録」を作る事に少なからず氣が引けると云ふ一種の悠々たる自覺が湧き出したにも依りまじやうが、又一つは日本の現時の教化行政に就て自分達の分擔して居る時代的責任と云ふものから見て、自分で一種の緘

口條令を作り出して、此の自繩自縛的の狀態に自分の思想を陥れて居るからでもありませんやう。

二

子供を中心として家庭内の出來事を、家庭の主人公の一人が自分で愉快に書く時は、統一した意識若くは一つの纏まつた自我のみが働いて居りますから、殆ど意識的に背景と云ふものの壓迫を感じません。即ち時代とか制度とか社會生活とかの表現としての子供の生活を見て、之を批判し之れが前後策を考へるよりも、自分一個の小さい自具自足的の出來事として之を見えを記録する事に依つて、己の感興を遣り自己の興奮したる慈父的の感情を客觀化し固定させる快を味ひます。

三

然るに幼稚園に於ける子供と云ふ標題は、云ふまでもなく家庭のみに於ける子供とは非常に違つた側面を有して居ります。學說・制度・設備・保育の方法態度、及び是等の時代的變遷を一つの問題と

して立てるならば、時代の文化の所産又は集合精神の傳統としての斯の如き事實の存在を考へますと不可抗的の大なる威力を以て此の事實は我々を攝取し包擁しつゝある事を感じせしめます。

制度や方法に對する我々の個人的の革命的感激や、學說や設備に對する我々の個人的の論理的感情は如何に内面的に強烈であつても、それは「こ」とば」の上の自由である丈け、「行ひ」の有する權威の前には、實力即ち現實化可能性の少ないものと感せられる事が多いのであります。

四

かう云ふ學說や制度と云ふものの威力は、恐らくは文明の進むと共に益々其容積を擴げ其程度を増すに違ひありません。勿論一方では改正も施され適應も試みられますしやうけれども、併し之等のものに固有な因襲的な惰力も亦決して之に劣らない働をするに違ひありません。いくら個人主義とか天才主義とか貴族主義とかの論客が、反撥的

掉尾的の大活動をしたにもせよ、此の普遍化の大勢を逆倒するなど、は思ひも寄らぬ事であります。かゝる論客は自己の卓拔なる意見が既に過去の時代の思想や施設の中に抱擁されて居た事をどうして正直に心付かなかつたかと私は怪しみます。たとひ今或る思想上の感激なり或る實行上の計畫なりを有つた偉人が表はれたとしても、恐らくは此の人の有する獨創性は前代前々代の學說や制度の完成者に或る形式に於て存在して居つた場合が必ず多きを占めて居ります。

社會的に見れば發明は要するに一つの改良に過ぎません。又大局から見れば此の進歩は其の進歩か退歩かは決して速斷する事が出来ません。恐らくは現在の有らゆる新しい教育上の學說や施設など、云ふものは、古い酒を盛つた酒壺の底の沈滓なりに新しい衣を着せ、金紙を被せてガラス窓に并べたチコレートクリームに過ぎないのではありますまいか。

五

今私の子供が一般の子供の中に入つて、此の根強い制度の内に育成されて居ります。私は常に「園兒としてこの坊や」と云ふ事を考へますと、私の眼には此の幼稚園の始まつて以來の子供の全體の姿が、無際涯の連續を爲して浮んで來ます。勿論其中に私の子供も交つて遊んで居るのですけれども、併し特に私の坊やに就いての個人的興味を起すよりは、私は寧ろ此の連續したる園兒の全群が團集して如何に取扱はれて來たかと云ふ其經路に重味を置きたい傾向を有ちます。

それ故私は幼稚園時代の坊やに就て何か書かうとしても、坊やの姿は全群の園兒の中に紛れて見えなくなりません。更に少時しばらくする間に、わや／＼ち／＼した兒群の姿も亦薄くぼけて仕舞つて、却つて、其背景の校舍や校庭や教室や設備などの移り變りがはつきりと現はれ、更に其背後に教育法規や制度の制定者の明治初期の若い姿や明治後期

の重ね寫眞のやうなぼんやりした姿が見えて來ます。

六

私はかうした自分の心持を少し書いて見たいと豫て考へて居りました。先日ふと其動機を得まし



た。それは茲に掲げた御茶の水幼稚園の圖を手に入れた事です。此の珍らしい圖は明治十四年三月柳原文盛堂出版、安井乙熊編「明治新刻畫入東京名所案内」と云ふ乾坤二冊もの銅版映入の豆本にあつたのです。

私が此の圖に依て明治十四年頃の御茶の水の幼稚園の光景を眺めて居る時に、丁度一月の「婦人と子ども」が配達されて來ました。そして第八頁の「昔の幼兒」よりと云ふ興味のある記事が、私の心を惹き付けました。此の昔の幼兒は今恐らくは四十歳位の御方でしやう。そして此の紳士が入園されたのは即ち明治十四年であると記してあるではありませんか。私は此の記事と、此の銅版繪と、私の生れた明治十四年と、現在此の園に御世話に成つて居る私の坊やと、とりとりに考へて、「明治十四年時代」と云ふものをいろいろに描いて見ました。

七

若し明治の文化史と云ふものを編するとなしましたならば、恐らくは明治五年の交、即ち種々の法規や制度を始めて樹立した時を以て、日本人としての偉大なる新生活の始期としなければなりません。まい。

之に次ぐ重大なる區劃點は、云ふまでもなく二十七八年の日清戦争と、三十七八年の日露戦争とであります。そして五年と二十七年との間を更に小分すれば、二十二年の憲法發布が確かに有力なる區劃點となるに相違ありません。

そして文化發達の上から見て最も興味ある時期は、五年から二十二年までの間、殊に其前半期であります。此の間に出來たいろ／＼の著述譯述や、頻々と變改せられた法規や制度などは、新日本の青年政治家青年學者の放膽的試嘗時代に充滿したる果斷な剛健な精神をよく具體化して居ります。

此の時代の制度は、決して後世のやうな因襲的に練り上げられた重ね寫眞のやうな集合精神の所産ではありませんでした。寧ろ英雄傳の一頁として見るべきもので、年の若い大膽な或個人の生得的稟賦の傾向が最も露骨に其姿を現はして居たのであります。私は此の意味に於て明治初期の施設

を觀るに大なる興味を感じます。そして此の幼稚園の圖に就ても、幾分かこの氣分を認める事が出来る事を悦ぶと共に三十餘年を隔てた「昔の幼兒」と「私自身の坊や」との對立にも非常なる感想を催します。

八

私は此の圖を説明した「東京名所案内」の編者の全文を掲げませう。

幼稚園 神田宮本町に在り此園は六歳未滿の幼童稚女の小學に入る前に知慧を發住せんとて保育せらるゝ園にて當時其生徒數百名ありと聞く攝理は議官從四位福羽美靜君なり

幼稚園

小林 秀 眞

二葉より教への道に養はれ

ことなる花の實をや結ばん

同

久間 棗 翁

二葉より生し立てんと添竹の

直きにならふ大和撫子

法規の完成制度の複雑化と共に、此の勇膽無碍な青年政治家の個性が、普遍的な集合的な機關を作りて代られて行きます。そしてこの二つの要素

がどう云ふ風な消長を以て進んで行くかと云ふ事は、極めて興味ある問題であります。私は此の圖の説明文を紹介して此の稿を止め、更に之を誘因

書架より

リズムの話 (Lee "Play in Education.")

韻と理性

幼稚園時期に於ける幼兒にあつては、その遊戲を行ふ場合は無論のこと、其他の殆んど如何なる場合に於ても、その動作は大抵リズム的である。尤もリズム的な遊戲といふものは、此の時期になつて始めて現れるものでなく、その以前とても、リズムの感覺は手足の運動又は發聲の最初の形式等によつて表現されるのである。此の時代の幼兒は唱歌、舞踏、詩歌等に分化せざる前の「所謂全

として此の意味の小篇を草する機會を作りたいたと思ひます。

紹介子

體の「リズム」によつてその動作を支配されて居るのである。

凡そ韻と理性とはものを考へる二形式である。而して韻のみがひとり何にも伴はれずに現れる時これに應せんとする本能がリズムである。而して幼兒に於ては最初リズムのみが現れる。されば幼兒が無意味な「アアアア」を韻律的に繰返すのは、その内的世界の表現を試みて居るのである。故にこの「アアアア」といふ發聲に對しては矢張同じ様に「アアアア」と言つて答へてやるべきである。幼兒に對して故意に譯の分らぬことを

言ふのはよろしくないが、このリズム的な發聲に對しては答へてやる必要がある。幼兒はそれによつて自己の努力が他人に注意され認めらるゝことを知るのである。斯くて幼兒は益々發聲の興味を感じ言語を學ぶ努力に導かれ易いのである。幼兒が片言交りに話をするやうになつて後相手になつてやるのでは、幼兒の發達を幾分遅れしめるのである。

幼稚園時代の幼兒の口誦む歌は、畢竟この無意味の發聲に次ぐべきものであるから、歌詞には左までの注意が拂はれなくてもよいので、ある變化に富んだ節まはしの面白いもので、幼兒の心に何時までも残り、その後の同化作用の手段とならべきものであることが必要である。即ち、この時代に歌はれる歌は幼兒にリズムの世界の自由を與へることがその主なる目的である。

リズムと運動

幼稚園時代のリズムの衝動の特別な現れは搖動である。服初は父の膝がこの目的のために利用せられるけれども、間もなく綱と板とで出來て居る一層便利な器具が使用せらるゝに至るのである。幼兒は一般に鞦韆を甚だしく好むもので、打捨て置けば何時までも鞦韆を離れないのである。何故幼兒が斯くまでに鞦韆に惹附けらるゝかは説明することが困難である。その原因の一部として或る幼兒に對しては鞦韆の急速なる運動が想像の刺激となるのであるかも知れない。けれども他の多くの遊戯に於て然る如く、急速な運動そのものが幼兒に取つて既に大なる魅力であることは疑ひを容れぬ所である。幼兒は又鞦韆から飛び下りることによつてメロドラマ式の興味を得て喜ぶのである。併乍以上の諸原因もさることながら、幼兒鞦韆に對する興味は彼等のリズムの感覺の満足が主となつて居るのであるまいか。何故ならば鞦韆は幼兒のリズムの衝動を最も具合のよい特殊の

形式に於て充たして呉れるからである。それ故に幼兒は没頭的前後不覺的に鞦韆に耽るのである。幼兒をして鞦韆に興味を持たしめる交代的リズムは人の一生を通じて種々なる形を取つて現れるのである。

運動の交代に魅力の存すると同じやうに音響の對偶にも魅力が存するのである。讚美歌はそのアンチフォニーの中に朝と夕、晝と夜、浪の進退等の永遠のリズムが含まれて居るために非常に美しいものとなつて居るのである。

搖動其他交代的リズムの形式に依るものが何故吾人に安靜や満足齎すかは不明であるが、多分それは人間生活の不可避的のリズムに應ずる爲めであらう。リズムは吾人を作る動機の一つである。而して吾人の身體の中に存在し活動するものである。勞働と休息、飽食と飢餓、生と死等が何故交代せねばならぬかには生理的の理由が存するのであるが、精神的に言つて人間は韻律的の動物

であるからとも言はれるのである。自然はその他のすべての仕事と一致させるために人間をも韻律的ならしめたのである。若しリズムの本能が人に與へられなかつたならば、人は藝術家たり得なかつたであらうし、又藝術鑑賞家ともなり得なかつたであらう。

リズムの本質は常に運動の感覺の中に存する。人は足に於て感ずる時始めて作家の意を十分に解し得るのである。即ち、舞踏はすべての藝術の父であつて、すべての藝術の中には舞踏的要素が存するといつてよいのである。シヨバンは彼の作曲のあるもの、インスピレーションを舞踏から獲來つて居る。中にも音樂は解剖學の制限なき舞踏である。詩歌に於て、又部分的には建築に於て、吾人の心に訴ふる所のものは運動の記憶である。吾人に觸るゝすべてのものは吾人を動かすものと言つても同じであるが、運動若しくはその變形物である、而してリズムは吾人に取りつて運動の聲である。

すなはち藝術は如何なる形式を取つて現れてもその中に常に舞踏の妖精を藏して居るといへるのである。

リズムと催眠

リズムの目的は藝術によつて盡きるものではない。藝術はリズムの副産物に過ぎないのである。リズムの本能は自然の仕事に實際的の貢献を爲すのである。歩行、疾走、漕舟、物懶き手仕事等、すべて反覆を事とする行爲を調整するに當つて、リズムの用は實に廣大なものである。リズムは行爲の連續を一つの行爲に化せしめることによつて、精神的努力の經濟を行ふばかりでなく、その行爲に特殊の力を附與するのである。

凡て反覆的の行爲は行爲者をして一種の歌を唱はしめるに至る者である。單調な仕事に従事する人々は、常に歌を唱ふか心の内で調子を取るかして居る者である。而して唱歌若しくは運動のリズ

ムは吾人の感性を鈍らせる。リズムは鋭い感性を眼らしめ、高尚な機制を保留して爾餘の機械をして不要の疲勞を感せしめず働かしめるのである。

リズムと社會

リズムは時の經過を知らしめないと共に一方又時を作るのである。尤もリズムが時の實質そのものとなり得ないことは無論であるが、茲ではリズムが時を堅實に把握する手段となり得ることを意味して居るのである。リズムは時に厚さと重さと整齊とを與へ、吾人をして認識し得べき部分を持つて或物として、時を取扱ふことを得しめるのである。音律、曲調は定つたリズムの名である。而してリズムは吾人の感情に具體的の意義を持つて居る唯一の時の量である。リズムのみが相等しきことを直ちに認めしむるところの時の單位を與へる。吾人はこれにより時の間に區劃を設け來るべき次のリズムを豫想する事が出来る。韻律的遊戯

によつて得られた時の單位の熟知に助けられる所のリズムの感覺の關聯した一種重要な實際的の機能がある。それは身體的運動のアクセント殊にハヅミを利用する運動のアクセントを知る機能である。このアクセントは熟練の結果知り得られるのであつて何事を行ふにもこのアクセントは必要である。アクセントを知つて居れば何處に力を入れるべきかに就て豫め用意をする事が出来るのである。幼兒の歩行練習も同様の知識を得る事にしての大部分が存するといふ事は賭易き道理である。社會力もリズムによつて動き層々積んでクライマックスに達するのであつて、このリズムを巧みに利用する人が運動の中心となり得る人である。共同動作を行ふ場合にはリズムは無くてはならぬものである、況してその動作が反覆的のものである場合にはリズムは一層必要となつて來るのである、何故ならばリズムは各個人を精神的に結合するからである。リズムは各個人の心意と氣質と

を溶解してその望むまゝの一體と變化させる所の社會的科學者である。

共同の意志及び意識のために自己の個性を没却しやうとする時、人々は何時も奇蹟を演じ得る力として本能的に一つの大きなリズムに歸するのである。軍歌や戦争舞踏は國民をして個人主義を棄てしめ一意君國のためにその身を捧げしめるのである。この故にすべての團體にはその團體の歌があるのである。國歌を始めとして市歌、校歌、會歌等はすべてこの目的のために作られたものに外ならぬのである。

希臘人はリズムの種々の形の上に其教育の基礎を眼き、文藝復興期の伊太利人は希臘羅馬の先覺に倣つてリズムに多大の注意を拂つたのである。

獨逸の堅實なる國民性がシラーの詩とベトーベンのシンフォニーとに依つて養はれ來つたことを知るものは教育上に於けるリズムの價値に就て疑ひを挾まぬのである。

ビエウロウ
夫人の フレーベル追懷錄

S K 生 譯

十四 ワイデンブルック閣下(つとま)

私は答へました「凡そ世の中に現れて來る程の新しい理論は皆多少神秘的の色彩を帯びて居ります、何故ならばそれは十分に理解されないからであります、而して又その理解されない理由はそれが今まで一般的に承認せられてゐた諸々の意見の間に伍してその位置を得てゐないからであります、而して正しい形式と表現とがそれには未だ缺けて居ります。それですからすべての新しいものは、思想を理解しないでたゞ自分の目的のためにそれを利用しやうとしてその外皮のみを捉へるに急である所の取込屋の手に委せらるゝことゝなるのであります、すべての組フオールン成は物質界に於ても靈智界に於ても法則に従つて進むものであると

いふことを私達は知つて居ります、けれどもこの進みが「如何にして」なさるゝかといふことを私達は知りません、發展のすべての過程の底に横つて居る所のこの法則は、據つて以てすべての組成が進む所の法則と同じやうに、人の心によつて認められなければなりません、それは據つて以て神がすべてのものを造り賜へる法則であります。而して神の造り賜へるものを模すべく定められて居る人はこの同じ法則によつてのみ彼の仕事を行つてゆくことが出来るのであります。何故ならば人の心は自から法則——即ち獨創的の法則——を拵へることは出来ません、すべてのことは神によつて決定されて居ります、人はたゞ存在物の新しき結

合によつて關係的に創造し得るのみであります。

然るに神は一人絶對的の創造者であります——神は自からすべてのものを造り賜ふのであります。

動物界に於ける本能の無意識的の創造的傾向は人間界に於けると同じくこの組成の同じ決則によつて進むのであります、兒童の本能は彼の蜘蛛や蠶や蜂が據つて以て網を張り、繭を作り、巢を作ると同じ法則をその内に持つて居るのであります、

それ故に兒童の心は無意識の薄明の中に住んで居りながら、この正しい進行が最初の形に於て具象化されてその眼に映されると共に直ちにこれを容易く應用して行くことが出來ます、而して兒童はそれの應用の仕方を示されるのであります。フレネルの教育法が眞に自然に一致し發達の自然の過程を半ば自己活動に委し、この法則に従つて導き護ることを主として居るのは全くフレネルが

すべての組成のこの法則を認め而してその適用法を心得て居るからであります。それ故にこの方面

即ちすべての力と性向とを働かしむる所の活動に對しては自由な服従が證されなければなりません、何故ならばすべてのものは假令無意識的にもせよ己の發達のために努力しますから否しなればならぬからであります。

この自由生産若しくは獨創的活動は、人々に與へられた自由によつて又先祖の罪惡を繼承することによつて神の法則から外れて邪路に入つて居るために如何にそれが蒙蔽されて居るとはいへ尙人の内に晦まされない獨創力のあることを證して居るのであります。組成的活動は個人の性向と特性とを明かにし、各個人をして彼自身を知らしめ、それと密接に結合されて居る満足と尊嚴の感とを作り出すのであります。

「幼兒期の初頃に在つてはこの活動の外部の形式は遊戯の形式であり得るに過ぎないのであります、この遊戯を少しでも獨創活動に變へることは極めて幼き頃より全存在の發達に支持と嚮導とを

提供して邪路に陥らしめんとする我儘を制さしむるのであります、同時にこの個人的傾向の自由活動を通して、生徒の力を顧みず現代の新要求を意はず傳統的の命令、要求のみに従つて學校及び家庭に於て形式的に行はれて居る現今の因習的教育法の標準傾向に對する平重が得らるゝのであります。但注意すべきは幼時の過度の刺戟と緊張とは力の總額を減じ弱め、各人に與へられた神の意志を獨創的に用ひることの出來ない多くの人々を死者の如くならしめ機械と變へて了ふのであります。

「すべての進歩、すべての教養は何か新しいものを産出することによつて既存の靈智的及び物質的の富の總額を増加させ得たところの各時代の人々の獨創的創造力の結果であります。

「現状に満足し、今までの習はしによつてのみ生活することに甘んじて居る模倣者は文明の進歩に對して爲す所あらぬ人々であります。彼等によつ

て何等の進歩、何等の新もこの世の齟らされないのであります。

「すべて高き教化に進んで行く所の潑刺たる天才の充満して居る時代の創造力は内在する神の法則に従つて自由に形づくり組織することの出來るところの獨創力に外ならぬのであります。時代は斯る獨創力の特有に比例して力あるものであり又勢力あるものであり得るのであります、それですから獨創的創造力を喚起し馴致することの出來る方法が如何に重要なものであるか分ります。」

ワイデンブルック閣下は懷疑的な微笑を浮べながら言ひました。「ではこの方法によるとすべての人が天才になれるのでせうか」

私は答へました、「どういたしまして、天才は教育される前既に生れ附いて居なければなりません、澤山下地があるのです、この方法はたい神の意志によつてそれがその時代の目的である範圍内に於て及び現代のすべての要求によつてそれが明

かに現されて居る範圍内に於て創造力の總額を増加しやうとするに過ぎないのであります。それから又現代の救^{サルベージ}助がこの教育法のみによつて保證されるなどといふことも言はれないのであります。この現在の緩慢な過渡期に終を與へ新しき折善き時代を來らしむるためには多くが爲さねばなりません、種々の事柄が起らなければなりません、新しい教育を施さなければ新しい人は出て來るものではありません、而して人間性を誤られたる教育の重壓的の桎梏から救ひ民衆に對する眞實の法の缺乏を修補するものを新しき教育であり得るのであります。けれども新しい教育はその完全にして一般的なる適用が眞の方法を以て進む時始めて如上の結果に達し得るのであります。而して私達はまだこの域には達して居ないのであります。

國家の秩序を紊らんとする惧れが新教育を念とする人々に新教育の保護を要求して居るやうに私

には思はれます、彼等は現下の不正虚偽を守らんとする教育的勢力の城砦に突撃し自由且つ意識的に法則に従ふ路を拓き、尙それによつて自由の最高程度に達せんと努めつゝある主張を極力守護せんとするのであります。」

ワイデンブルク閣下は言ひました、「國家の支持が开^{せん}廢に簡單に得られるとしたならばその方法は既に行はれてゐなければならぬと思ひます、大洪水の最中に耕すことは出来ません、私達が斯る必要な改善に着手し得る前に私達は先づ政治的方面に於ても亦權力者となつて居なければなりません。私は時代に適應した國民教育の必要を認めますけれども、又フレールベルの方法から多くの便宜が生じて來ることをよく理解することが出来ますけれども、然も私はあなたが確信するやうにこの種の改善の成功、尠くも直接的の成功を信ずるとは出来ません、斯る改善は大海へ一滴水を落す如き結果に陥り易いものであります。粗野な俗衆

——この言葉は如何なる事を意味するでせうか——
——其處には何世紀に亘つて無數の改革が沈んで行つたルビコン河が横つて居るのであります。』

秋は答へました、「さうです、それですから更に善き更に一般的なる教育によつて是等の粗野な俗衆が社會から絶滅されて了はねばなりません、これはお仰せの通り性急には行きません、私達が長い時間を思つてみる時人間性の進歩とその教化とは否まれませんが、地上の萬物の永久的前進的發展を私達が信ずることが出来ないならば一生を賭する、又は一時代を賭するやうな高尚な活動は行はれないであります、私達は私達の蒔いた種子が何時實るかを知れません、けれども後代のために我が義務を爲さんと欲したならば私達は種蒔がなければなりません、けれども種蒔いた人は誰でもその成長して益々大なる力となることを望まなければなりません」

ワイデンブルックは言ひました、「それは私達が

致しませう、時期が来たならばすぐに始めせう、土地には休養期があります。たいあまり多くを期待し過ぎてはいけません、それから私達の國の如く小さい國は全然他の助けを借らずして事を爲すことの不可能なることを忘れてはなりません、フレールベルに彼の説を重んずるために彼の協同者の選擇に意を用ひるやうに勸告して下さい、彼等の中には自分の身の危いために彼の仕事を危殆に陥らしめんとするやうな者があるやうです、是等の半熱の政客はフレールベルも彼等の希望する如き破壊的傾向を懐いて居るといふやうなあられもない評判を起させる原因となります」

私は答へました、「私はフレールベル及びフレールベルの説を表面的にのみしか知らないものでも斯る疑ひを起さないであらうと思ひました、革命のモットーは顛覆でありますがフレールベルのモットーは進展——人と物との進展であります、而して社會及び國家を改新するためにフレールベルの取る方

法は革命的急進者のそれとは丁度反對でありま
す、而して又是等の革命的急進者といへども眞の
改善者と同じく警聲を放つといふ點に於て歴史的
進歩に多少貢献する所があるのであります。

「新なる建設を可能ならしむるためにはやくざ
なものを破壊し棄去ることが必要であります、是
等の破壊的群集の裡にも亦高貴なるもの善美なる
もの、爲めに努力しつゝある理想家が居るもので
あります。彼等はたゞ方法に於て誤つて居るので
あります。けれどもすべての理想家と、進歩と改
善のために努力する人々との間には拒むべからざ
る共通點があります、而してその意見及び目標に
達する方法が如何に異つて居やうともお互ひに同
情を持つて居るのであります。是等の同情がフレ
ーベルをして人物に關してあまり意を用ひさせな
いかも知れませんが、而して彼の自己犠牲の精神は
多分自己の利益を求むるに急なる人々に欺かれる
ことを意としないであります。警戒と批評とは

彼の關する所ではありません、有爲善良の人が政
治的の闘争のために犠牲とならなければならぬと
いふことを痛ましく思はぬ人がありませうか、フ
レーベルも亦この事には氣が附いて居ります、け
れども彼は今では以前若い頃革命的意見を懷いて
誰にでも知られてゐた彼の甥達からは離れて居り
ます」

ワイデンブルックは言ひました、「如何に多くの
人々が私達の同情及び賞讃を熱望いたさせようと
も政治上の是等の犠牲は不幸にも現今のやうな時
代に於ては避けることが出来ません。國家及び秩序
の存續が累はさるゝ如き場合には法律は個人に就
て區別をしませんし假借をも致しません。」

生先郎三平島高問顧

モドコ

誌雜繪の一本日

色特の誌本

- 最もまじめなこと
- 最も教育的なこと
- 最も平易なこと
- 絵の美しいこと
- 記事の面白いこと

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中独自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

七十五町林區川石小市京東 所行發

社モドコ
 番八 番一 番六 番七 番二 番京 番東 話替 電振

定價一冊拾錢
 郵稅五厘
 六冊郵稅共五拾八錢
 十二冊郵稅共壹圓拾錢
 總て前金の事

の一本目 年幼本目

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價

壹冊拾錢 □半年 郵稅共六拾參錢
郵稅壹錢 □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇

東京社

フレールベル會規則 (抄)

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレールベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品、幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス
- 一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
- 尙毎年四月廿一日特ニフレールベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク
- 一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス
- 一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

會長

中川謙二郎

會告

- 本會事務所先般より東京女子高等師範學校附屬幼稚園内へ移轉致候處尙御承知漏も有之候様につき重ねて申上候
- 會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願候
- 萬一本誌不着等のこと有之候折は直に御一報煩し度候
- 會費御未納は會計整理上甚だ困却致候に付確實に御納付下され度尙後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置き願候

フレールベル會

一層ノ奮勵努力
 テ以テ益々店務
 ナ擴張シ貴需ニ
 應ジ可申候



石膏製銅像定價五圓

東京市麴町區三番町

フ
レ
ー
ベ
ル
館

電話番町二九〇九番
 振替東京一九六四〇番

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人子ども 第十六卷 大正五年二月五日發行
 納本濟

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場